

研究構想シート	学校名	隠岐の島町立北小学校
	氏名	高橋 祐也
A 研究主題	主体的に課題に取り組み、共に学び合い考えを深める児童の育成	
B 研究の目的	算数科を中心として、自分の考えをもち表現する場や児童同士で学び合う場を工夫することで、児童の主体的に課題に取り組む力や共に学び合い考えを深める力を伸ばす児童の育成を目指す。	
C 子どもの実態 ・素直で落ち着いている。真面目に授業に取り組んでいる。 ・課題に向かって一生懸命に取り組むことができる。 ・全体的に反応が少なく、発表時の声の大きさに差がある。 ・やるべきことはできるが、それ以上に自分達で考えて行動する力が弱い。 ・自分の考えに自信をもてない児童がいる。 ・自分と友だちの考えを比べたり、考え直したりすることが難しい。	E 手立て・内容（研究仮説） （研究仮説） 自分の考えをもち表現する場や児童同士で学び合う場を工夫すれば、児童の主体的に課題に取り組む力や共に学び合い考えを深める力が伸びるであろう。 （手立て・内容） ○自分の考えをもち、「できた」を増やし学びを楽しむ ・魅力ある課題提示の工夫 ・めあての明確化 ・評価基準及び評価規準の明確化 ○相手の考えを尊重し、自分の考えを再構築し表現する ・反応の仕方や意見の返し方を提示 ・学習過程の工夫	D めざす子どもの姿 ○主体的に課題に取り組む子 ・自分の考えをもち、工夫しながら粘り強く学習課題に取り組む子 ・「できた」「なるほど」を増やし、学びを楽しむ子 ○共に学び合い考えを深める子 ・自分の伝えたいこと（考え）を分かりやすく伝えられる子 ・相手の考えを尊重しながら、自分の考えを再構築し表現する子
	F 検証方法 ・ノートやワークシートの記述をもとに子どもの変容を見取る。 ・ふりかえりを書く時間や練習問題に取り組む時間を適宜設定し、児童の理解度・達成度を捉える。 ・アンケートを実施し、児童の意識の変化を分析する。	
	G 研究計画 5月 第1回研究職員会 今年度の研究計画 6月・ 第2回研究職員会 研究の手立ての決定 7月・ 第3回研究職員会 全校で揃える取り組みについて 8月・ 職員研修 9～12月 それぞれの学年で研究授業を行う 1～2月 研究のまとめ 実践収録の作成 3月・ 来年度の方針について	